
海の日悪乗りしてみた日和

返歌分式

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

海の日悪乗りしてみた日和

【Nコード】

N6561M

【作者名】

返歌分式

【あらすじ】

河合曾良がただひたすら松尾芭蕉を断罪する話。海の日かもしれない。

(前書き)

結構日和で投稿している人が多かったから、題名通り悪乗りしてみました。

可愛い曾良？ なにソレ？

ただひたすら曾良君が芭蕉さんを断罪するだけの短文。

「というわけで笑え鬼弟子！ ヘッドロー！ ヘッドロー」

「黙れ！」

「うみんちゅっ！…！」

ずざざざと地面をヘッドスライディングしていく松尾芭蕉を無感動に、だがどこか愉快に眺めながら河合曾良は「とうとうイカレやがって…！」と小さく呟いた。

その呟きをヘルイヤーで耳聴く拾った松尾芭蕉は地面に少し突き刺さった状態で、わきわきと両手を振り回して抗議する。

「イカれてないっつーの！」

「そうですね。それはよかったですね」

「な、何その残念そうな顔……」

毎度ながら河合曾良は辛辣だ。

松尾芭蕉はいつもと同じ河合曾良の冷たさに幾分がしょんぼりした気持ちになる。

ここでいつもの松尾芭蕉なら、少し文句を言って断罪チヨップをされた後にこの話を昇華させていただろう。

だが、今日の松尾芭蕉には譲れない理由があった。

そう。

今日は、弟子が唯一笑う海の日なのだ！

「くっそー！ 他のところでは海の日祭りで可愛い曾良がいっぱいいるのにちくしょー！ 笑え鬼弟子！」

「何呼び捨てにしてるんですか。断罪しますよ」

「え、待、私仮にも君の師匠なんだけど！ 敬え！ 曾良君のヘッ
ドロー！ ヘッドロー」

「うるさい！」

「ちゅらうみ！」

悪乗りした結果がこれだよ！

松尾芭蕉は地面に突き刺さった状態のまま断罪チヨップを食らい、
そのあまりの痛さにしばらく悶絶する。

だ、だが松尾芭蕉は譲れない信念があった。

可愛い曾良が、見たい！

「デ・レーろ。デ・レー」

「消えろ！」

「とつとつ!?!」

二撃目の断罪チヨップを食らった松尾芭蕉は、そのあまりの凄まじい威力に地面に抉れた線を作りながら吹っ飛んだ。

バーンと木にぶつかりずり落ち、そして木の幹でめそめそした。た。

木に逆立ちの状態でもたれ、顔を覆いめそめそする中年男性の図。端から見てよく分からない構図だった。

「ふう……」

河合曾良は頭に置かれたかぶり笠を直しながら、そんな哀れな松尾芭蕉を横目で見て、微かに笑った。

(後書き)

芭蕉さんはいつも間が悪いと思います。

いや、曾良君が計っているのかもしれないけどね。

甘いとか、どう書けばいいの………(、・・・、)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6561m/>

海の日悪乗りしてみた日和

2010年10月9日04時39分発行